
ずっとそばにいるから

りん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ずつとそばにいるから

【Nコード】

N7320Y

【作者名】

りん

【あらすじ】

名探偵コナンの原作逆バージョンです。

蘭ちゃんがアポトキシン4869を飲まされてしまいます。

投稿が遅れてしまうことがあるかもしれませんが、どうぞよろしく

お願いします！！（林檎の葉さん、パクッちゃってすいません・・・

）

FILE、1 約束

「工藤邸」

「ネーネー、新一」

「ん」

「この主、高校生探偵工藤新一は書齋でシャーロック・ホームズの小説を読んでいた。」

「私、空手の都大会で優勝したから、トロピカルランドへ連れてって」

「ん」

「ねえ、聞いているの？」

「ん」

「新一ってば！」

「ん」

「今新一と話しているのは、現在、帝丹高校空手部女主将を務めている毛利蘭だ。」

「蘭はさっきから新一に、トロピカルランドへ連れてってもらおうとがんばっているのだが、新一は聞こえていないみたいだ。」

「蘭は怒って、」

「新一なんか、もう知らない!!」

「と言って出ていこうとしたら、新一が止めた。」

「蘭、ごめん。確かトロピカルランドの話だったよな！」

「そうだけど、今は推理小説を読まないって約束したら許してあげてもいいけど。」

「読まねーから出ていくなよ。」

「わかったわよ。」

こうしてあっけなく、一つのケンカが終わったのである。

「じゃあ、明日は学校休みだから、明日いこーぜ!」

「分った。じゃあ明日の十時にトロピカルランド前でね。」

蘭は、別れ際にこう言った。

「もちろん、新一のおごりって事も忘れないでね?」

「まじ……」

この後、新一が銀行へお金をおろしに行ったのは言うまでもない。

FILE、1 約束（後書き）

初めての連載小説に挑みます。

頑張りますので、どうぞよろしく願います!!

FILE、2 トロピカルランド

「トロピカルランド」

「ねー新一、どこ行く??」

「蘭が行きたいとこでいいよ」

「ちゃんと考えてよ!」

新一はトロピカルランドの地図を見て、しばらく考えていたが「ここ、いいんじゃないか」と言っただけで地図を指差した。

「ミステリーコースター、面白そうじゃん!」

「えーなんか怖そう・・・」

「大丈夫だろ。ほら、行こうぜ!」

「ミステリーコースター殺人事件から1時間後」

「おいおい、もう泣くなよ・・・」

「あんたは、よく平気でいられるわね・・・」

「オ、オレは現場で見慣れているからバラバラ死体とか・・・」
「サイテー!!」

蘭はエーンと言ってまた泣いてしまった。

新一はおろおろしていたが、

「ここで待っていてくれ、すぐ戻るからよー!」

と言ってどこかへ行ってしまった。

蘭はしばらく泣いていたが、落ち着いたのか泣きやんだ。

すると、さっきのミステリーコースターに乗っていたサングラスの黒服男がトイレの隣りの細い道に入っていくのが見えた。

「何しに行くんだろう」

そう思った蘭は後を追うことにした。

「ほらよ!おまえの会社の拳銃密輸の証拠のフィルムだ・・・」

(え・・・)

「悪い事はするもんじゃねーぜ!」

(うそ・・・新一に知らせなくちゃ・・・)

そこまで思った時、誰かに殴られた。

「こんな小娘に見られやがって・・・」

意識がもろろつとする中、

「あの時一緒にいたもう一人の人だ・・・」

と思った。

「こいつ、殺しやすい!？」

「いや、拳銃はまずい!! さっきの騒ぎで、サツが、まだうろついている!!!」

そう言つて、あるケースを取り出した。

「こいつを使おう・・・ 組織が開発したこの毒薬をな・・・」

蘭に薬を飲ませながら言つた。

「フッフ・・・なにしろ死体から毒が検出されない・・・ 完全犯罪が可能なシロモノだ!!」

まだ人間には試したことがない、試作品らしいがな・・・」

「アニキ、早く!!」

「オウ・・・」

2人が去って行ったところ蘭の体に異変が起こった。

（か、体が・・・熱い！！骨が溶けてるみたい・・・も・・・も
うダメ・・・）

FILE、2 トロピカルランド（後書き）

ミステリーコースター（ジェットコースター）殺人事件、飛ばしちやってすいません・・・

すごく長くなる気がしたんで・・・

これからもがんばります！！！！

FILE、3 蘭・・・？

「蘭！？」

新一が戻ってくると、蘭がいなかった。

「ここで待ってるって言ったのに・・・どこへ行ったんだ？」

新一はひとまず蘭の携帯に電話してみた。

PRRR・・・

「くそつ。出ねー」

しばらく待っていたが、帰ってくる気配が無いので蘭を探しに行くことにした。

「ん？」

すぐ近くの細い道を通った所に、誰かが倒れていた。

「蘭！？」

倒れていたのは・・・

今日、蘭が着ていた服を着て
しかも顔がそっくりな女の子だった。

しかし、新一と同じ高校生の姿ではなく、小学１、２年生くらいの子供だった。

「蘭？」

「・・・・・・う」

「大丈夫か??」

「し・んいち・・?」

「蘭なのか? ケガしているじゃないか・・とにかく家に運ぶかな。」

蘭は新一と家に向かった。

FILE、3 蘭・・・？（後書き）

蘭ちゃんが小さくなってしまった・・・。

これから、どうなる！？

「その毒薬の作用で縮んだのか・・・」

俺は阿笠博士に相談してみる。蘭、それまで使う偽名を考えとけ。」

「あら、蘭ちゃんがいいんだったら新ちゃんの妹にすれば？」

「母さん！」

「新一のお母さん！」

そこには新一の母、有希子が立っていた。

「いつこっちに來たんだよ・・・」

「ついさっきよ。悪いけど話は全部聞かせてもらったわ。」

ロス生まれの新ちゃんの妹ってことにすればいいじゃない」

「蘭、それでもいいか？」

「うん。」

「そーゆー事だから、バーイ」

「ちょっと待て。もう帰るのか？」

「ええ。予定がパンパンだから。じゃーねー！」

2人はしばらくビククリして声が出なかった。

FILE、4 目覚めたら・・・（後書き）

なぜ有希子が突然現れたんでしょうね・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7320y/>

ずっとそばにいるから

2011年11月24日19時48分発行